看護部だより

23病棟

● 感染対策について

23病棟は整形外科･眼科･救急科･感染科･総合診療科の混合病棟です。整形外科や眼科の患者さんは手術を目的に入院します。感染科や総合診療科、救急科では肺炎･インフルエンザ･胃腸炎等の感染症が多く見られます。このような混合病棟であり、基礎疾患のある患者さんも多く入院するため、感染を広げないように病棟全体で感染対策を徹底しています。病室に入るときは、感染経路に合わせた防護服を着用し、病室に出入りする際や処置の前後などには必ず手指消毒を行い、常に感染予防を行っています。私たち医療従事者は常に手指消毒剤を身に付け、また、患者さんやそのご家族も使用できるように各病室の入り口にも配置しています。

感染防止対策を徹底する一方で、病室から出られなくなるなどの生活上の制限が増えることでストレスが溜まってしまう患者さんやご家族も少なくありません。そのため、看護師だけでなく、保育士や臨床心理士と協力し、いろんな職種で力を合わせて入院によるストレスを少しでも軽くできるように努めています。感染症の患者さんでも使用できるおもちゃや絵本を準備するなどし、患者さんに合わせた遊びが提供できる工夫もしています。

今後も、23病棟のスタッフ全員で感染対策を徹底し、患者さんとご家族を感染症から守るとともに、精神的なサポートが出来るように頑張っていきます。

感染症患者が使用できるよう除菌シートで拭きあげができるおもちゃ

感染症の種類に合わせた防護服を着用

30秒タイマーを測り、石鹸で手洗い

アルコール消毒は15秒

私たちも活躍しています

リハビリテーション科

リハビリテーション科は、理学療法士２名、作業療法士２名、言語聴覚士１名のあわせて５名の常勤スタッフと、週に１日手伝いに来てくださる大学所属の理学療法士２名と言語聴覚士１名のあわせて３名の非常勤スタッフが臨床業務に携わっています（2020年12月現在）。業務の範囲は年を追うごとに拡がっていますが、最近の状況を少し紹介します。

2019年度から、フォンタン手術を受けた子どもの心臓リハビリテーションを始めました。心肺運動負荷試験と体力テストの結果をもとに、よりよい生活を送るための運動日課を提案するプログラムです。循環器科医師の指導のもと生理検査室の技師と協働で取り組んでいます。

2020年の春からは、親子入院による集中リハビリテーションの取り組みを始めました。このプログラムは、さまざまな要因で発達がままならない子どもを持つ保護者が、部門スタッフによるリハビリテーションを通して子どもの課題を理解し、関わり方や介助のしかたを学ぶことにより、子育ての不安を軽減し地域で子どもと暮らしていくことを目指すものです。2週間から４週間の親子入院プログラムに、これまでの1年間で10組以上の親子が参加しました。当センターに主治医がいない場合は神経内科を紹介受診して参加の相談をすることが出来ます。

その他、地域の専門スタッフを対象とした研修会や一日研修の受け入れも行っています。愛知の小児リハビリテーション支援の向上のために、これからも一生懸命取り組んでいきます！

心肺運動負荷試験の様子

地域の専門スタッフを対象とした研修会の様子